万亭應賀作

第一号

上

Gôkan:(No. 012)
Shaka Hassô.
Part 1 Book 1B-

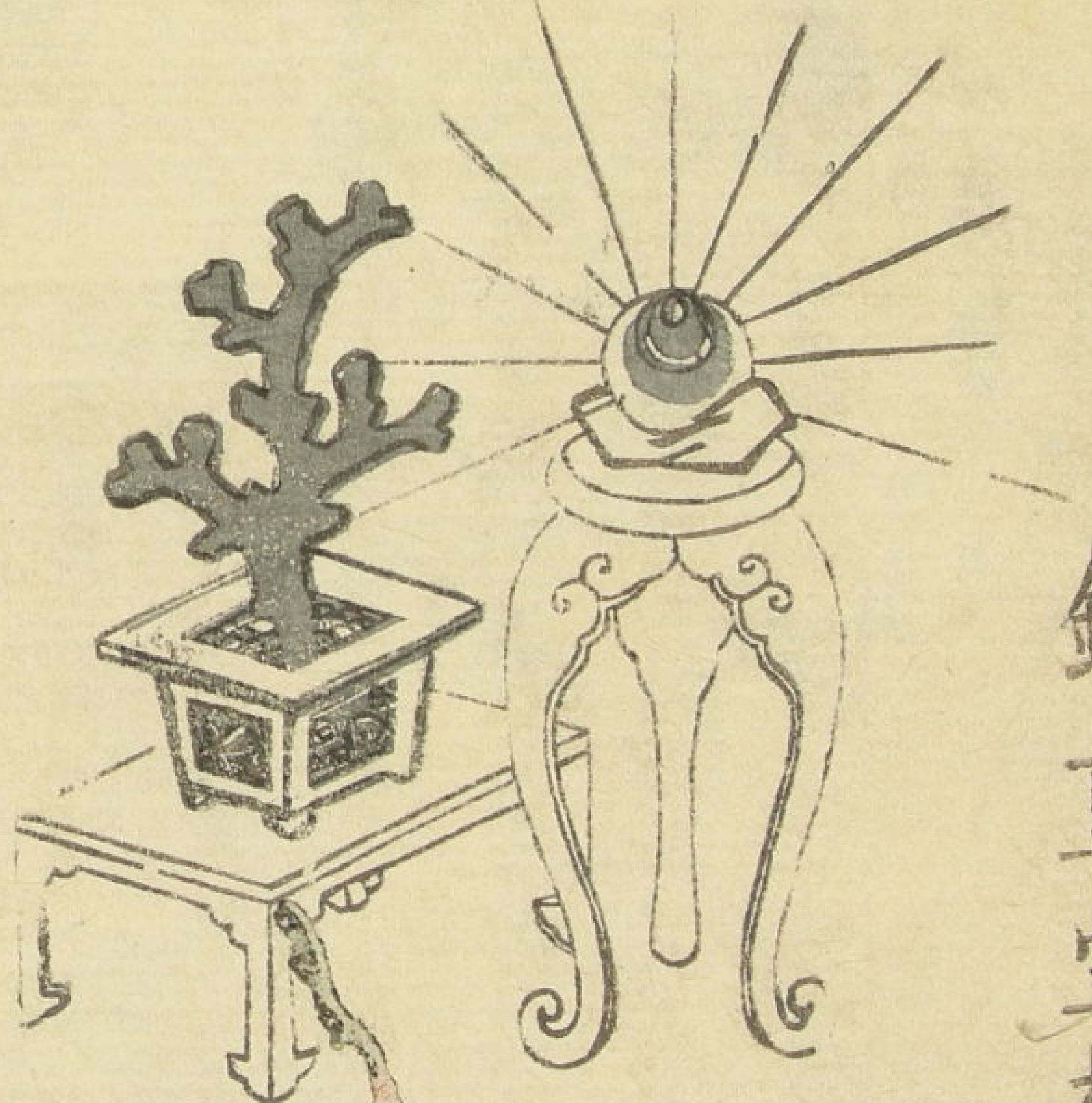
へ13
3749
1

門 へ13
號 3749
巻 1

釋迦八相倭文庫

初編上之巻

万亭應賀著
一陽齋豊國画



錦重堂梓

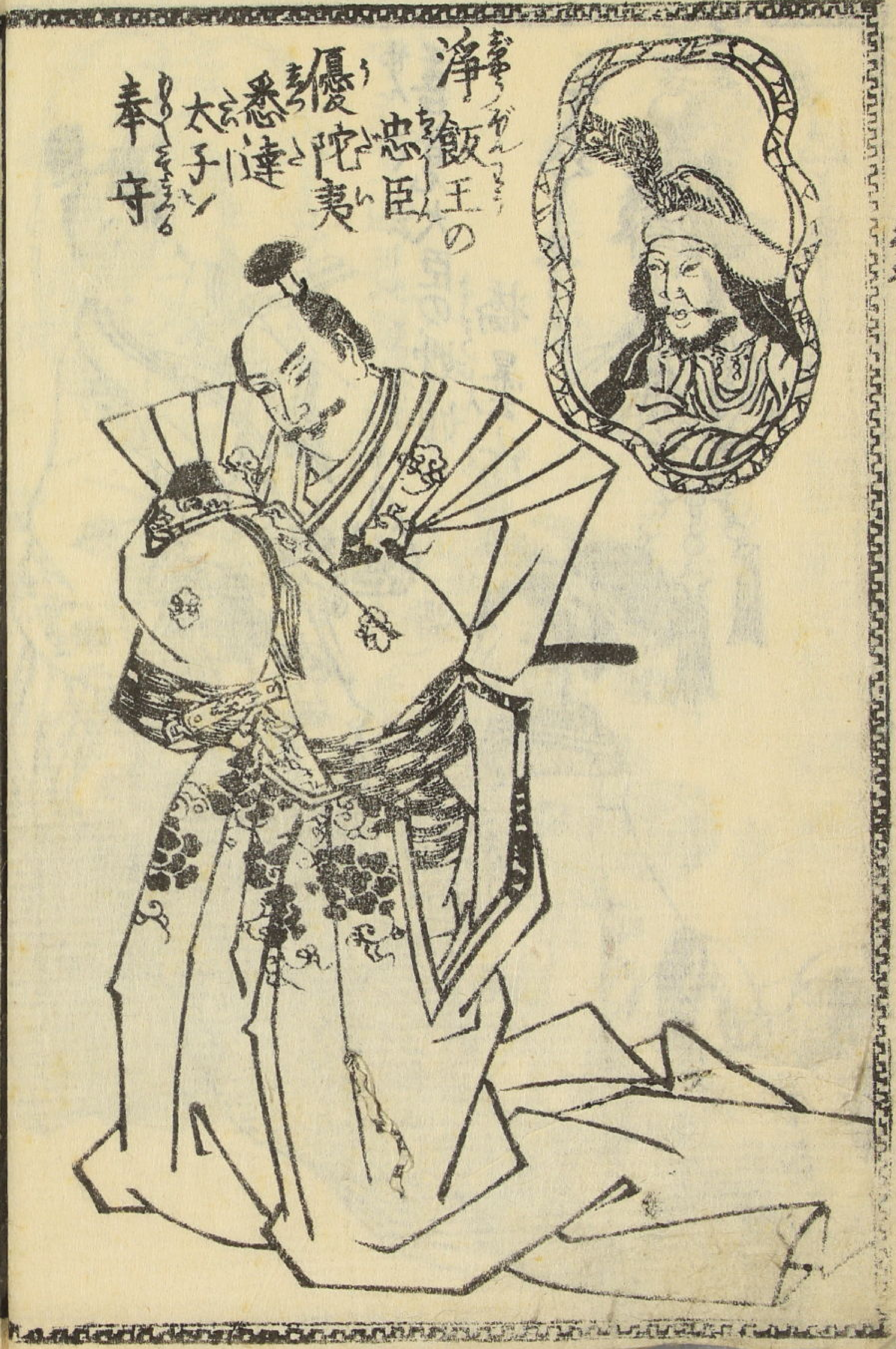
叙

大集経末来記に曰如く白法隠没と説きし
こそ今なりの時に合せ見るに不思議なるかな其意
不孝の心顛倒して武家が番太に番太が
亭主を嫌ふ女房あり予ゆ十八歳にして
戯作ろうぎせどえより師匠を取てそとせ
まし書ても一點も読ことを得ん殊の外猿智恵方便
八四十餘年の元祖もあれバたとへ釋迦八相の物
語りを机よ私えそ是を著す

天保十六年
乙巳の孟陽
二十五歳の戯作
二十番之内 万亭應賀述

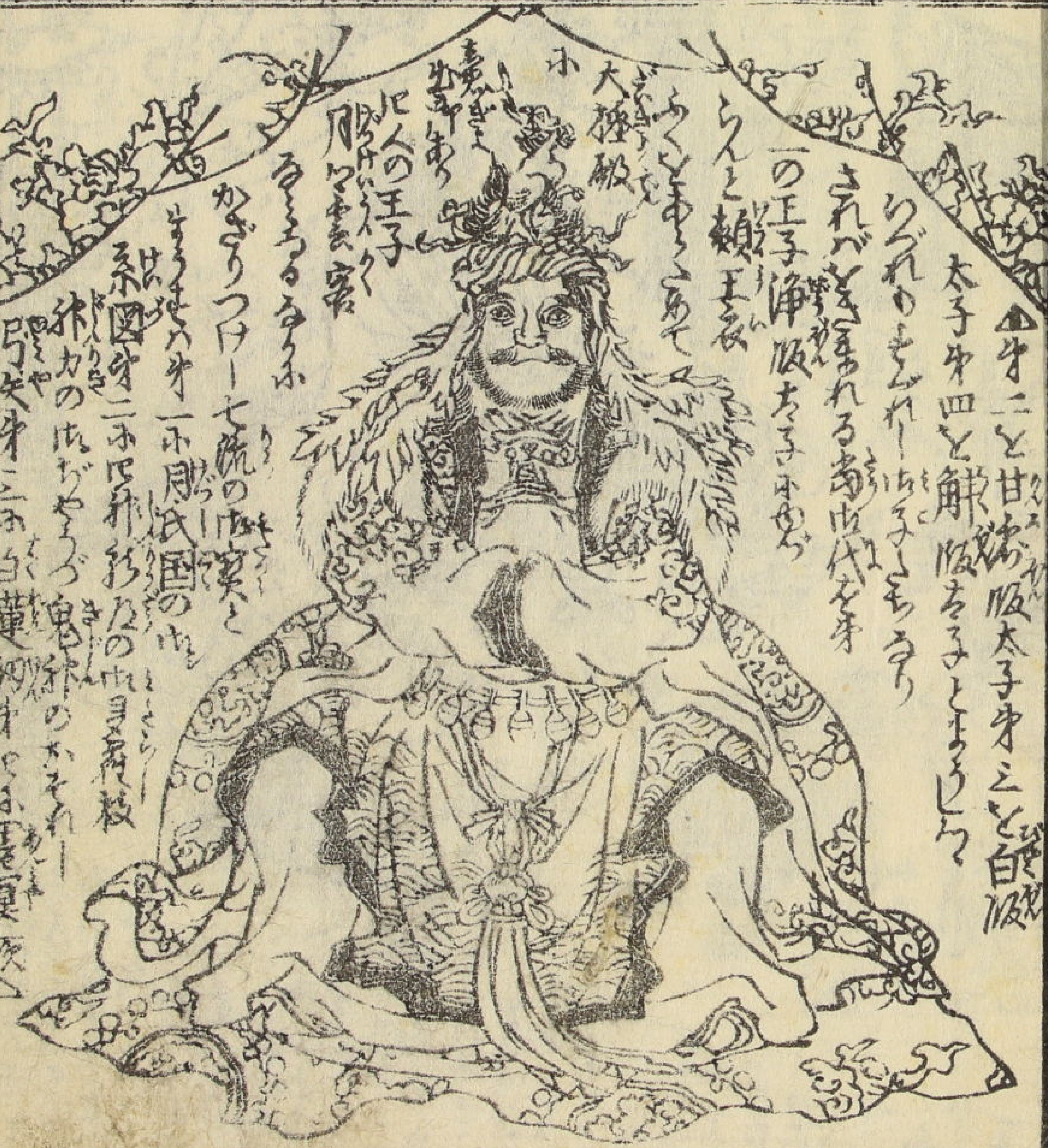
善覚大臣の娣娘
摩耶夫人
中天竺迦毘羅城
三十七代
浄飯大王
善覚大臣の姉娘
憍曇弥

優陀夷
女房


浄飯王の
忠臣
優陀夷
悉達
太子
奉守

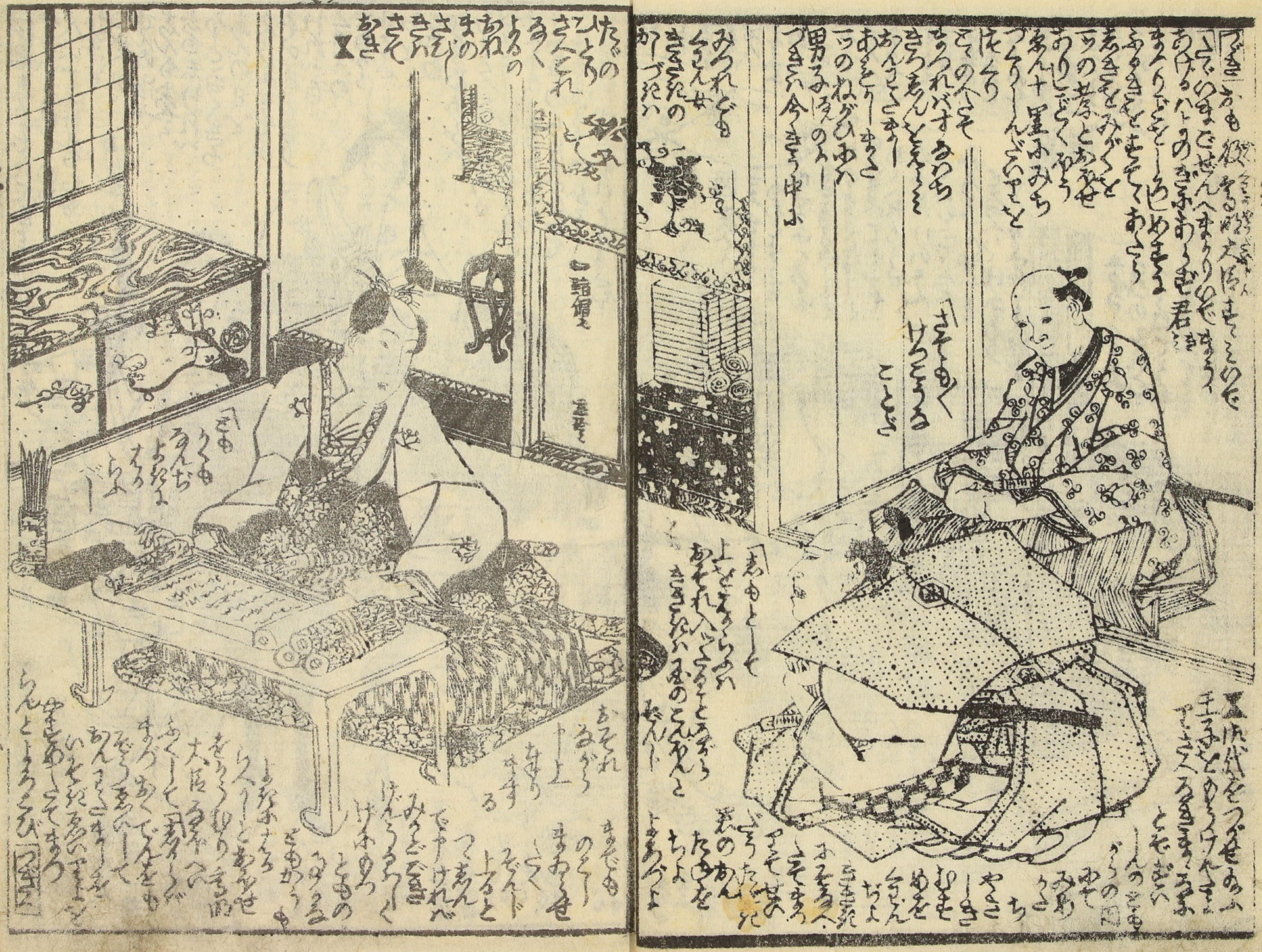
師子頬王

そも／＼それ五天竺のその一ッ中天竺摩加陀国の都迦毘羅城の開闢大賢王より三十六世の帝師子頬王と申たてまつるに王子四人有り第一を浄飯太子▲



▲第二を甘露飯太子第三を白飯太子第四を斛飯太子と申まつりしに
いづれも[illegible]ちよう[illegible]
されバ[illegible]うまれる[illegible]代を第一の王子浄飯太子ハ[illegible]
らんと頼王[illegible]ふくまつりて
大摩[illegible]
[illegible]の王子[illegible]
[illegible]
かざりつけ七流の[illegible]
[illegible]月氏国の[illegible]
[illegible]国第二[illegible]
[illegible]の[illegible]おそれ
弓矢第三[illegible]白蓮[illegible]

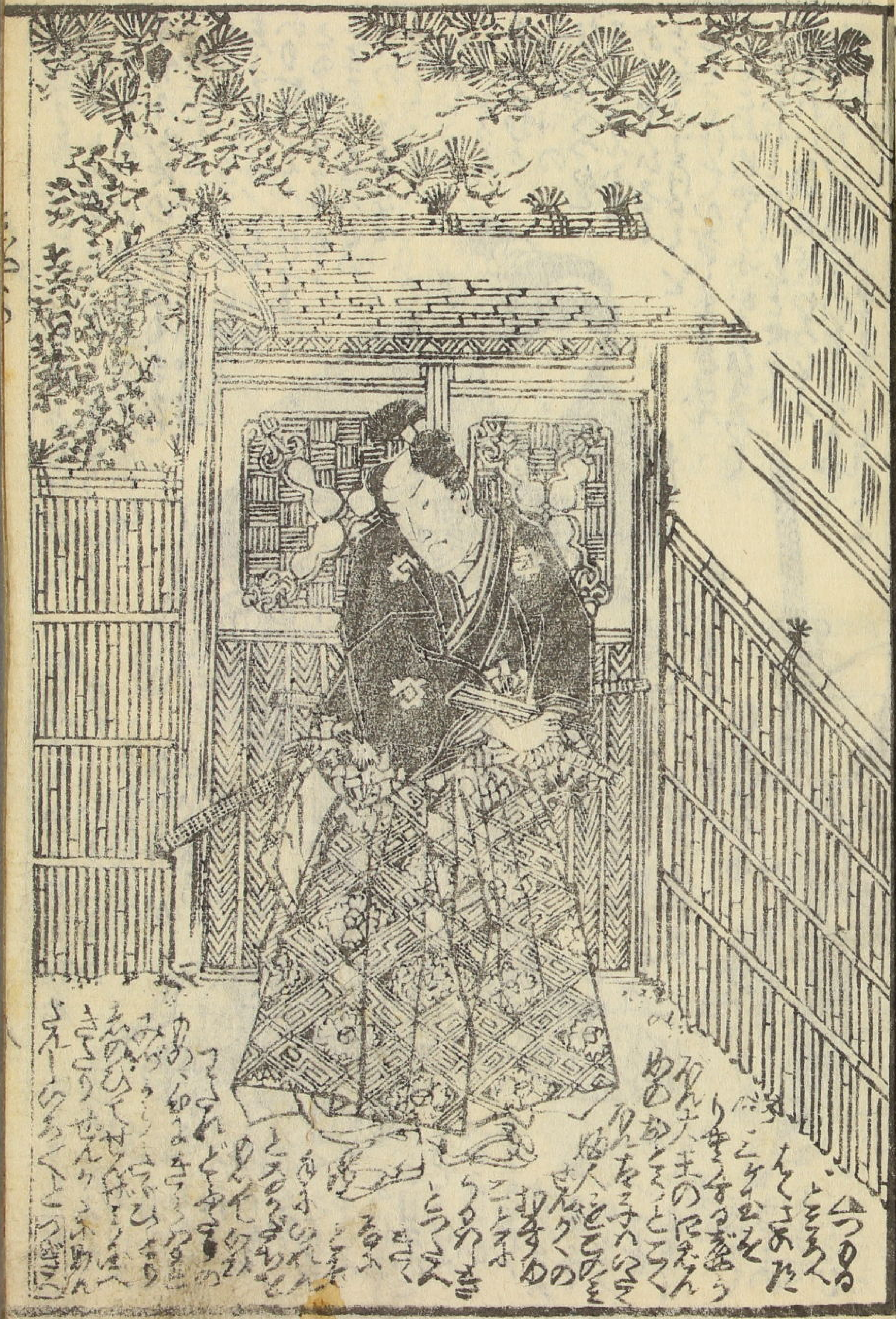
三人の王
降服大王



つゞき ありそれにてさてと
やうはそれぐのやく
人へてんけんのおりから
むきを
つくわく
でんの仕ふ
ちんも事ちう
お合ありけれバ
みどゐつくきろ
あんの日と
えらそすではそ
その日とより
けれバ百
人さんの
ご首ぐら
ふまとさ
ちとを
こと取
むすめあちこべ
みつぐ入たてまつる
べえよし加でのやえん
けんおなうおせんゆち
とめきのちまてぶらで
のまをさとりのあやくの
ぐうしけかとあれとすきと

ぶりたぐひなき兄のむろうをあら
そひみちどの仕とやりとすゑちらさけて
今やおそしとうとうかゝるとりう
おちゃうけん大王さんおやうかきぜん
おゝげのこ才のふまさぐりたつるぞしく
なんくとかへくりぐふのめんへむ事
まく化うまのたれれ書さうへきもろく
とある二へ言てりなへ萬め太臣ちちを嬰ふ
ひぶさへきことれふ答ゑおまするかつら
きこゝ人おとちんのめんくうむすめ
あさりよふかうひとうとおとくてんへ
め入れぬへとやおあぐれバまぶと
する才もりちんを姿やさうて
それら中自兵しやくもちくまるひ
きぐうて三百人ふらえだちよふ
あへくくられまぐさま
かひら盛へとまのおしゃぞを
なせぬふけとさきへきち言う
天臣らすくてふるをわかけるおきうて
の勤人どう人言て吞ちあうふ世よ
たぐひなきを美人せうんろく大臣の
むすめ由人ぞうきとらかのそて
ふんるかうをうとぶへぶしかれ
らうせんきゞふをれへくのゝのと
まゐりて申させたてまつりける

△ゑいゆう堂作ものまき光版
○大岡裁二人六冊
○縁組大鏡二冊
○孤狸稲荷二冊
○大国初夢活二冊
○清盛七重根中本之冊
○善右山陰埜糟英四冊
あさつ外
仕る



〔つゞき〕つまりくでさきのそなたどもせんぐく
ふへいのかんあつく。ゆそしやまうの一〔たとへ
すが子なれ とものりせのえんハひとつ
ずちおわるの忿ゆもまるせ
なとこれをせもりのひきうせ
あだせたくあわぬの[illegible]
あるずくいわく[illegible]
へのせのえんハ[illegible]
とものもの[illegible]
そなた[illegible]きハ女の
身のえ[illegible]を
[illegible]つひめへ
[illegible]れてまいと
えくまろ[illegible]
ふまうのむかの
二つの[illegible]の
むかんべつらを
るへせけんふまて
わかつひなまれ
とぞせ[illegible]ると
くをつきけしかるくまきさけん
どそそ[illegible]おもひきえて
[illegible]のあと[illegible]
[illegible]のあと[illegible]
[illegible]のそうの[illegible]
[illegible]まきて[illegible]

のおだち ひきあげ おくの一[illegible]
さつてたり[illegible]
わ[illegible]のむすめ[illegible]
と[illegible]
あら[illegible]との上臈
ぐえり[illegible]
すの[illegible]
きょう[illegible]をつく[illegible]
み[illegible]の[illegible]を
やきそ[illegible]
しやうと[illegible]
お[illegible]の[illegible]
大王の[illegible]
と[illegible]のみ[illegible]
やん[illegible]ざん
ねんやとむすめを
た[illegible]
せ[illegible]
の[illegible]
ゆれ[illegible]
[illegible]のせん
らく[illegible]
の[illegible]
わ[illegible]
[illegible]
の[illegible]大臣〔◇〕

⊕ さて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
と自[illegible]
[illegible]けん
[illegible]
せんぐくへ
[illegible]
[illegible]のをまで
[illegible]のあわせ
[illegible]

[illegible]ねと
でぞんじの
ごとく
小玉の
それ
[illegible]むすめ
ども
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

安政四丁巳年春新板目録

倭文庫（やまとぶんこ） 三十七編 三十八編 三十九編 四十編 万亭應賀作 一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋（しげのいひしぞめわけこもん） 七編 八編 為永春水作 同画

昔語小栗實説（むかしがたりをぐりじつせつ） 二編 三編 松亭金水作 同画

花山吹百人女郎（はなやまぶきひやくにんぢよらう） 初編 二編 柳亭種彦作 同画

大寶御江戸圖（たいほうおえどのづ） 極上摺 奉書六枚半續

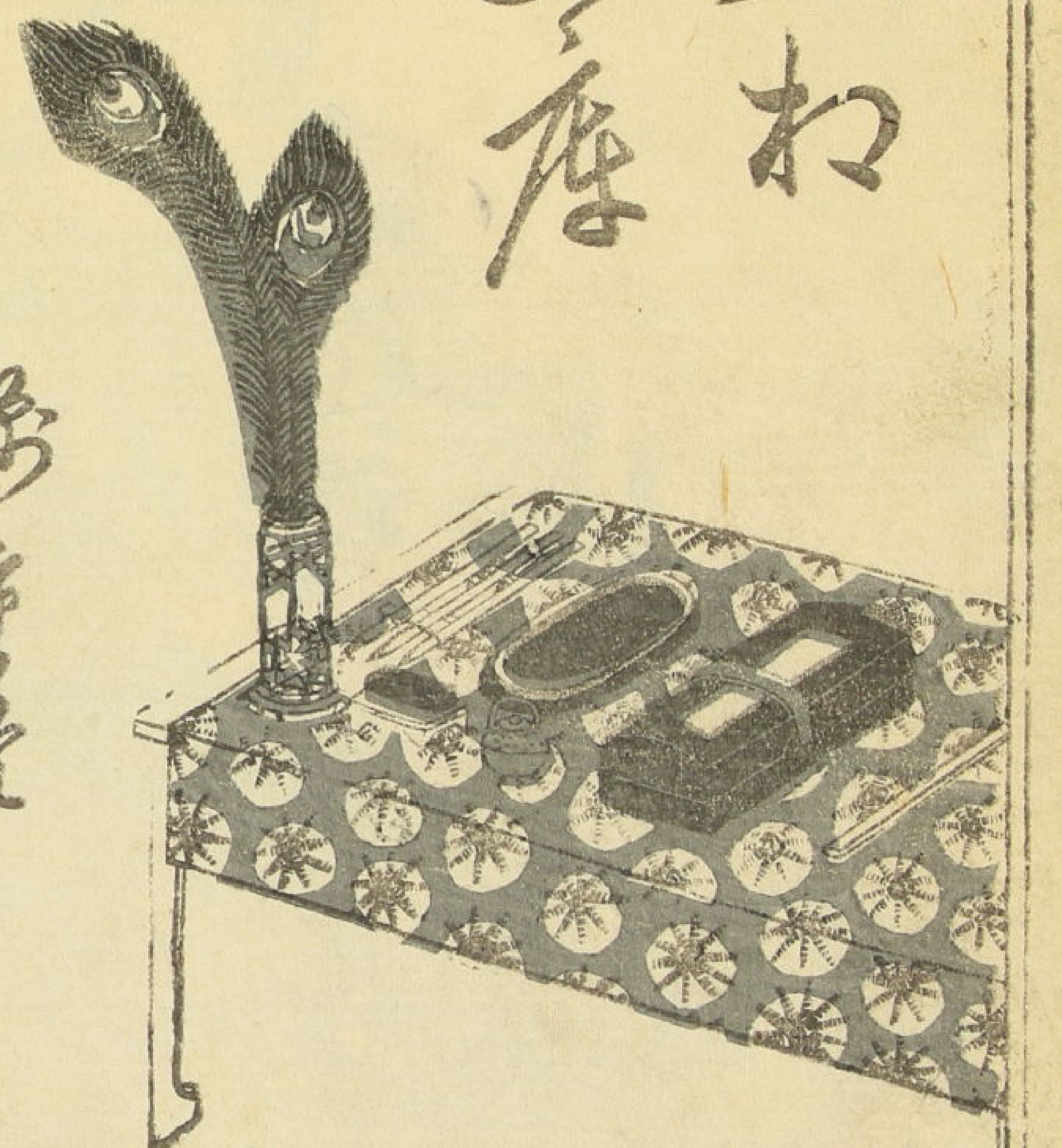
常磐津懐中本（ときはづくわいちうぼん） 初編 二編 三編 四編

〈重 繪州紙本類 人形町 上州屋重藏

倭文庫初編
一陽齋豊國画
錦重堂版
下

さるほどに初大臣ハかの舜人の
ひめをめとりめでたく婚礼ありて
のちりてまたほどなく
ざしかまりくるそうろうせしに
みかど御悲しく思しめされ
まいめてまつりたまへて
るるぞ死ありひぐさ
するうち
小玉の王に
身をまかせんとて出て
善覚王とやもしを
ちかりにせうのれいを
さんぶくをあそばされける
ところとやえもせんぶくが
かくふうてきれけ めを
ちからみぞる
ちうとも
かの王を
たちぶく
ふけする
[illegible]

[illegible]



雑迦八ね 伜子座

初編 下の巻

万亭応賀著

一陽斎豊国画

溪斎英泉 書 桜

金吹色

〔つゞき〕世にかくそるべし
ものゆゑありける
されば津飯大王へ
かの御入の女とさだめて
きこえたゆゑそうぞくされ
どもまげていゆとの
花のうごきやふどんみて
とろふるひ夕々にや
代々三のくちうつしぶし
自ふとあり高月のるを
けうどんをひとりねの
ねやさびしきにまねきま
むのらちふおこり アラ
うらめしやひとりのきまく
あていのとそてもさみ留る
これたわしすゝる紅と
うろふそりやくしめの
おさせゆへ多かりくのふかる
ひしくさどそふやひとりは
あんろ下むとのるそれよ
たゞのひそぶくりとも出めて
すゑらのふかふひとりねさま
しかれきこえまして居あさけるの
おみすうらいのやんや・ノ耶まへ
えんをきり たのんとあり
すゑもかくさじとうくを

かころその
手ねんかり
ねのあらゆゑ
あきれへび
とうり
さうろと
さそ
義経海の
よるの床へと
とびゆくあり
こまつれぐの
女中ども
これゆゑ
これを
そうろもありて
こやきろう
あるまひや ととふ
青竹をあてそれける
○さてよ花のうご
ノ耶まへ殺せんハ
きこの身よく
うらみて殺して
ふかんうちひるげく
わびのうへハ下よきもおとづれ
うきをあらう人へまうであそろうをかた
ちてあんざんとゆゑさうそれど

〔つぎへ〕

つゞき
おもひも
みやうく
かくて
こんどつ
ふかく
まつえけれバ
君も一下の仏
ありぞおかれ
めそ⇧

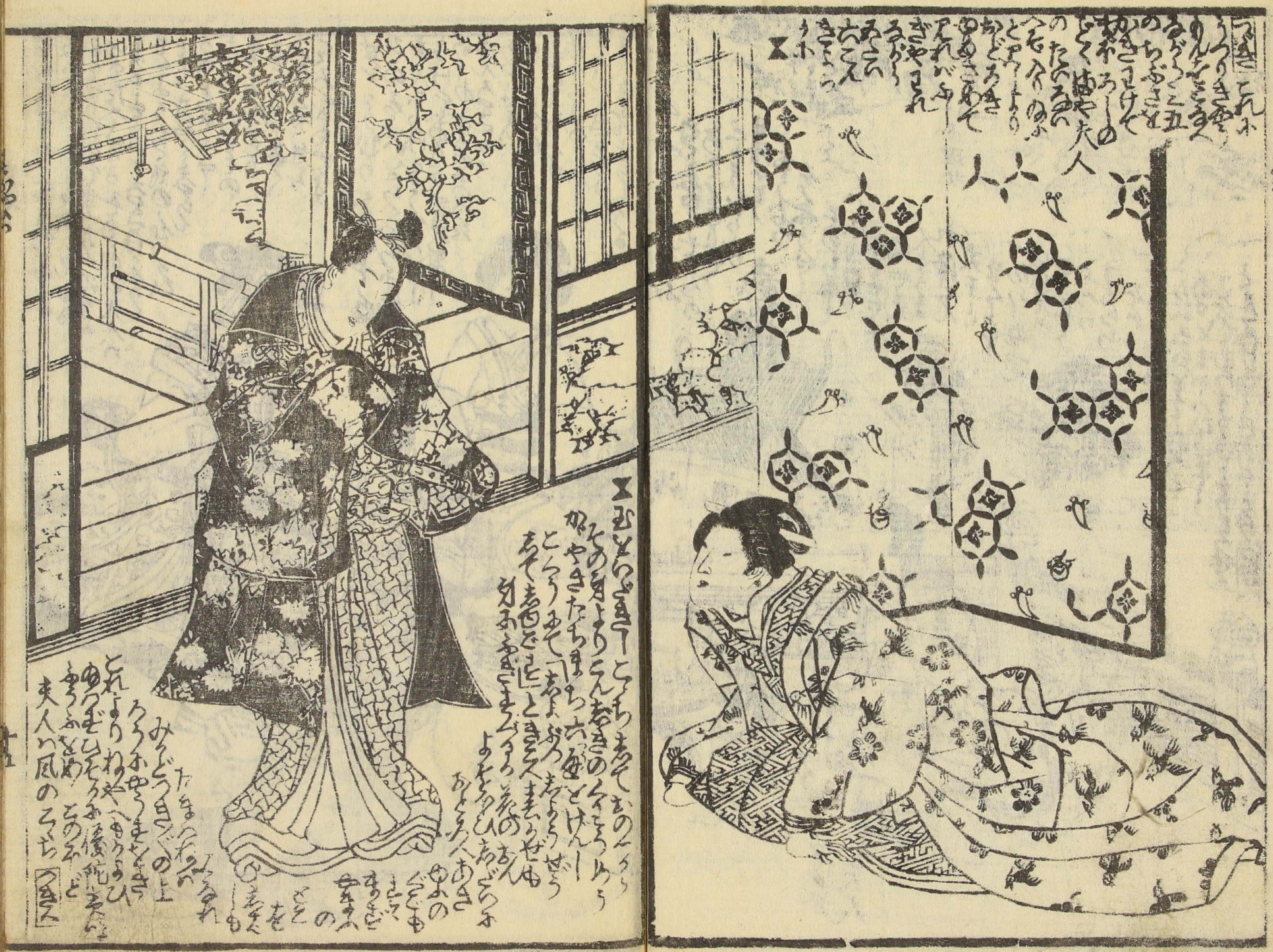
⇧この
うちのさ
かよわせ給ふ
あかるのふよくする
もみうせの
この[illegible]かる
せひり[illegible]の

⊠あづかりしかあれせゆり六駅ハ
おりわずあきくにアラヤのもの
云るやおかけるや[illegible]
こまづの[illegible]
此身のなにゐたへ[illegible]
とけとやさえ[illegible]
おりのも[illegible]
ゆ人と身をそむくれい
やとけりさみての[illegible]
く[illegible]
まぞお[illegible]のせんせう
東よゑの[illegible]
てキンナラ城とめへる
ありとのこゝやとの
おやド法お教王[illegible]
のりうきこの仏の[illegible]
ゆ羅女[illegible]
やとけ[illegible]母ま
かられイクダ
殿人といふ
けれ母木
そぞそ
られーら
つぎへ

むの象に乗そつく
せーよるのゆめをぞ看き
さえのまゝ[illegible]まで
ろむおやのゆめをふしぎ
おもたえるちんりくさえ
むーさきのゆめもたゞおそき
その父は十六大の宝蔵
そもそもんぢきあふれの八人ずれ
七ゑいの宝樹八本をそふぎ
の番をなるうつくめく
のみとけかへ喜ひてさあう
[illegible]をさずけまいらせ宝蔵ふの
こびらさるとこひらけ大虫も
てんのうへにありてそつめり
かくれくと[illegible]
と[illegible]
法仏[illegible]ずバト
父ものさうえの人が白象まで道
おれ入けるどの[illegible]きてるその大
りくさわくけおんと象あらくる
一ゐ[illegible]人古人有はけちるえん
ふりけまとが[illegible]
父とこゝのをふだんをつる母と
さのうちて[illegible]のつの
[illegible]
たゐるいをかしの人と⊠

つゞき 仏けの母ホコウヤ女と云ひめひとりありみめかたちうるはしく父ども寵愛すおよびがたきまでるり女トウヨウ王のみかどぶかしづくをけいざのねさミのてきめぐざんげしめてを そうあふそれば法王すゝて みやこの北ホセツタラ山とかけんその山へむろをつくりつくろきさるり女をたてひとりすてさせイクダ夫人のむすめコウヤ女をそのかなとしてトウヨウ王のみかどへかしづかせけるされバるり女ハきさき母のかたきとぞ浄光ぼさつのさられける仏ダツクボン一億念を喜ぶ

千ぶつして一万ぶつ ぼさつをこのことをそて三ところとげ日月こう をくうせし そのちるをふよりて今までも法や夫人とうまれ浄ぼん大王とまゐらせかりのゑんによりてぼさつおうはするなちそれがしるり女ホたいなるそうしゆへとあるとまやいひさまこひてあへするよりそうぜんとまえげひけり



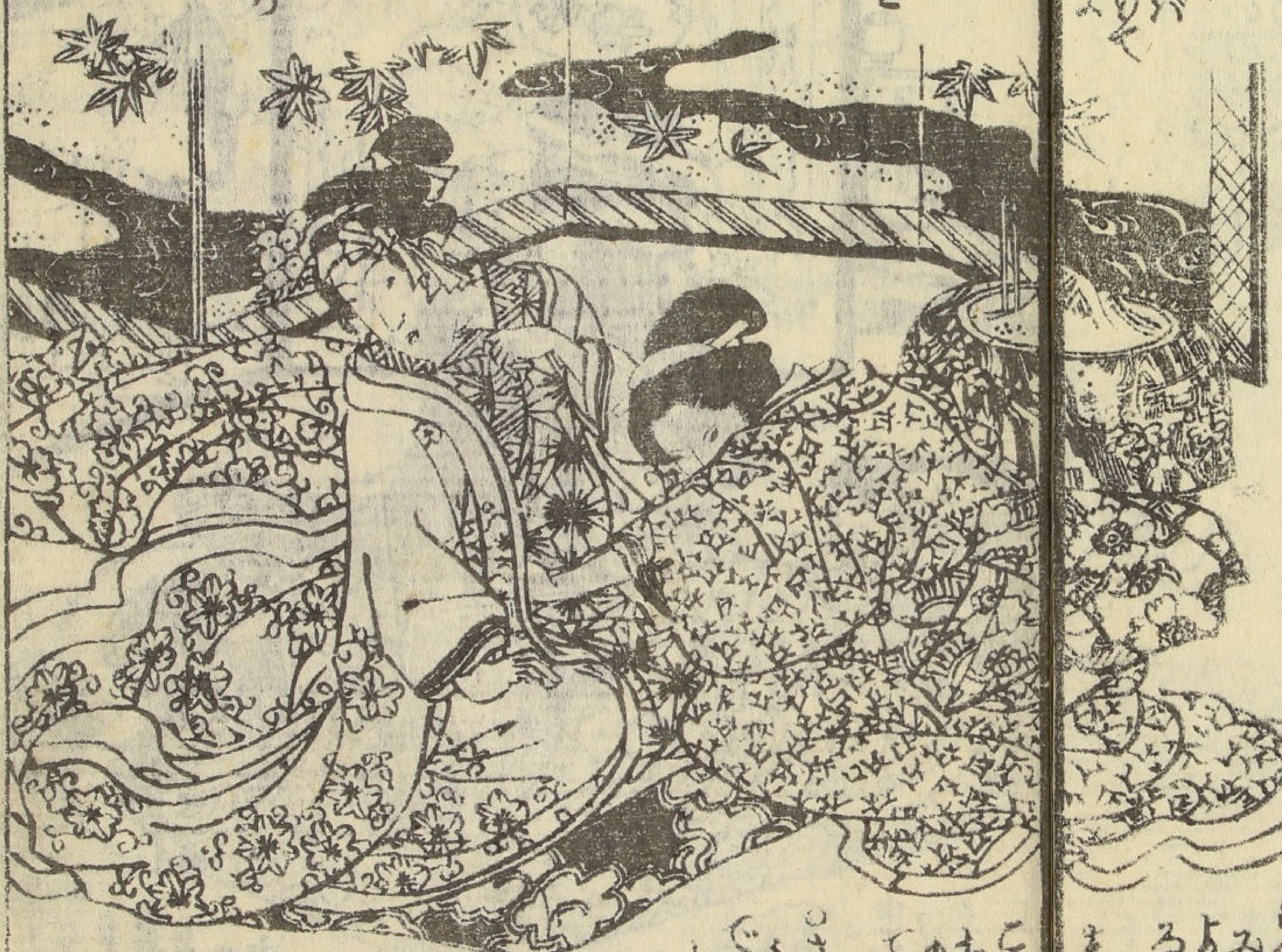
たまされへ
みだらう目での上
ろうかやうまとときろ
これよりわのやへもうひ
あつぎひそうか優衍五も
まうかをあどのゑど
夫人の風のろくち
つゞく

[illegible]

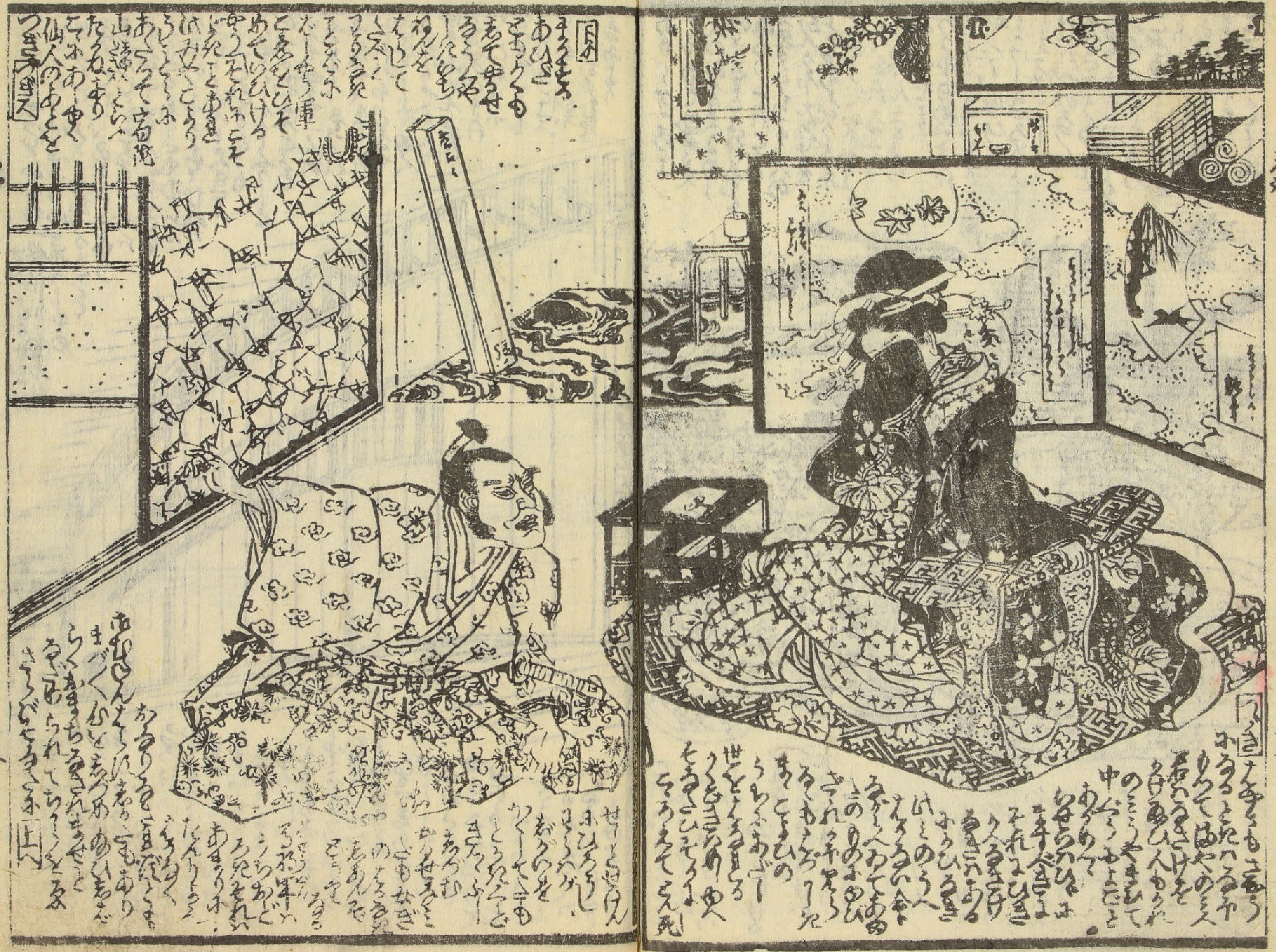
[illegible]

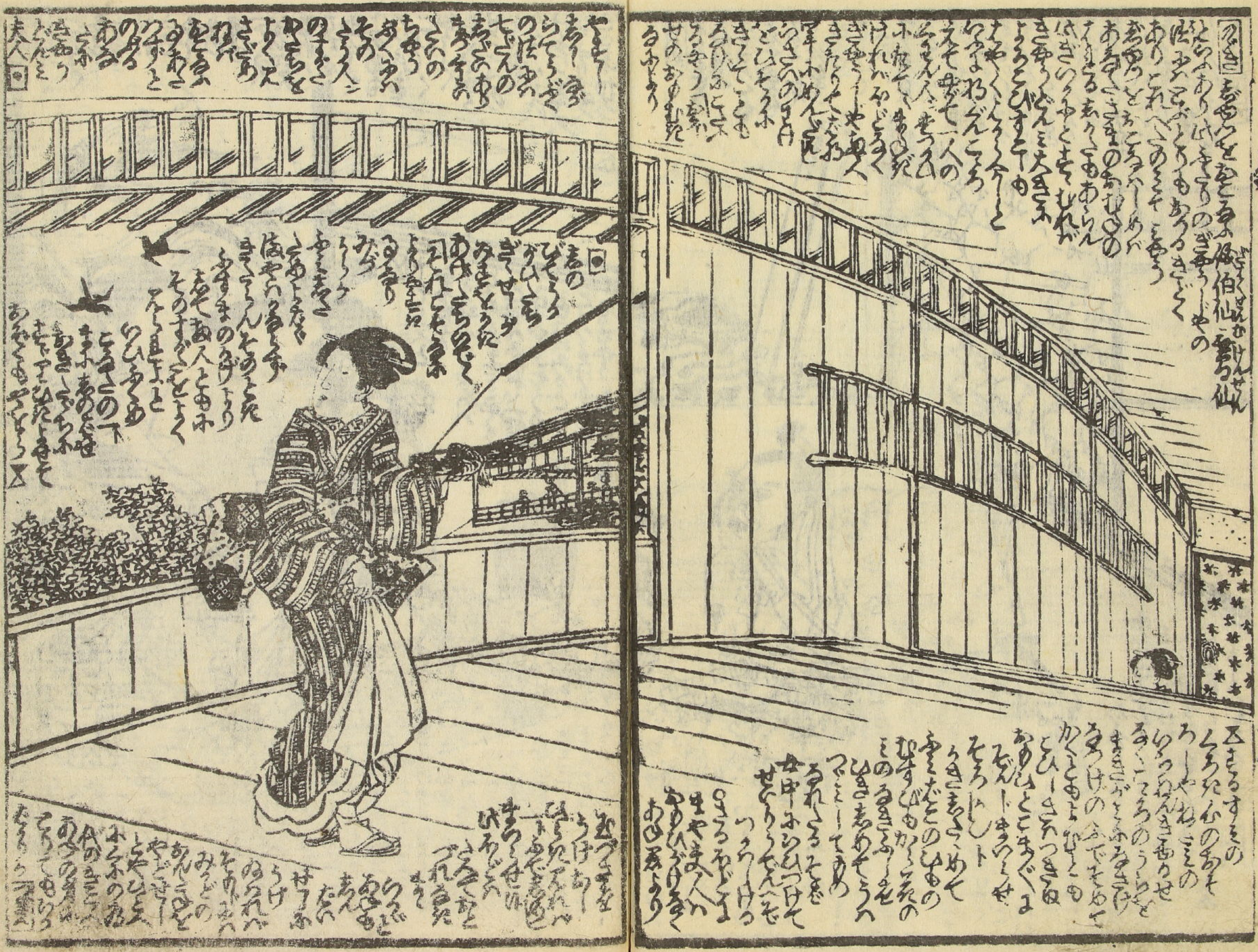
（つゞき）ところは元来おもてむきへ
出ぐち勝どんのはざしきも
うちとひとへそせんふく人
そのこのうちにしをそろへ
そめしまへ人の心をゆ
のこらみずみのもの
ともよきかほりける
さて若やぎ
女中のうちの
ふうふにぞ
のやくを
つとむる
女の中より
かんじうろき
八ツ位の相すめるが
あやのかまへねこのび男を
ゆうつゝにあやのりんきをうけ
しんなるき月のうらしもとせし
君ちうさまおかゞさのせきの
おきごくのしちろん女ひとてその
めをまた月のかゞり
とてこぞりのを
ずぐまってよくとて
ろうえもののうちを
あまりこの女中にはめて
うちとしおのやくぎ

あの一ゲこのよ
どめてお夫
人のおんまへつめ
りざさまとさけるなど
あかりそれでもさと
るおすうち夫人の
おんうれだ付きを
とがめるかから
はなしてのかわり
こそれるがら
れふんどま夫よの
おんるやさまへ
わかものめでまた
王子の心へよそ
やとでぬひて
ぞけしきさるりと
おそろしく中
けれどみなく
たぐふうちあど
ろきさそくはまどろ
めでこゝろとよろ
こぶるよもなや
ふしんおかひ
おもするひたどの
きそむりのちぐろ
ことぞのえて ◆



これぞ根元そん
おやまうの
のとひとこそう
てみるく
○されバこの
うわさ月けの
じんのきよう
どんえ入まさえ
おやぜんらく
王よりの
つけ人
むしやう
軍をめ
いうあたり
かんきつろう
かのまあかれ
おちたわく
ますをも
かさらい
せしとのる
ただでさへ
つぶかえへ
きこのふうん
うよふの水をさ
ことろへ「つゞく」





一陽齋豊國画
万亭應賀作

安政四年丁巳春新板目録

倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊 將棊双六　同作　歌川貞房画

男女振合 役暦双六　同作　一陽齋豊國画

武家奉公出世双六　同作　同画

奥奉公出世双六　同作　同画

極上摺 擬百人一首 百枚揃　一陽齋豊國画　一勇齋國芳画

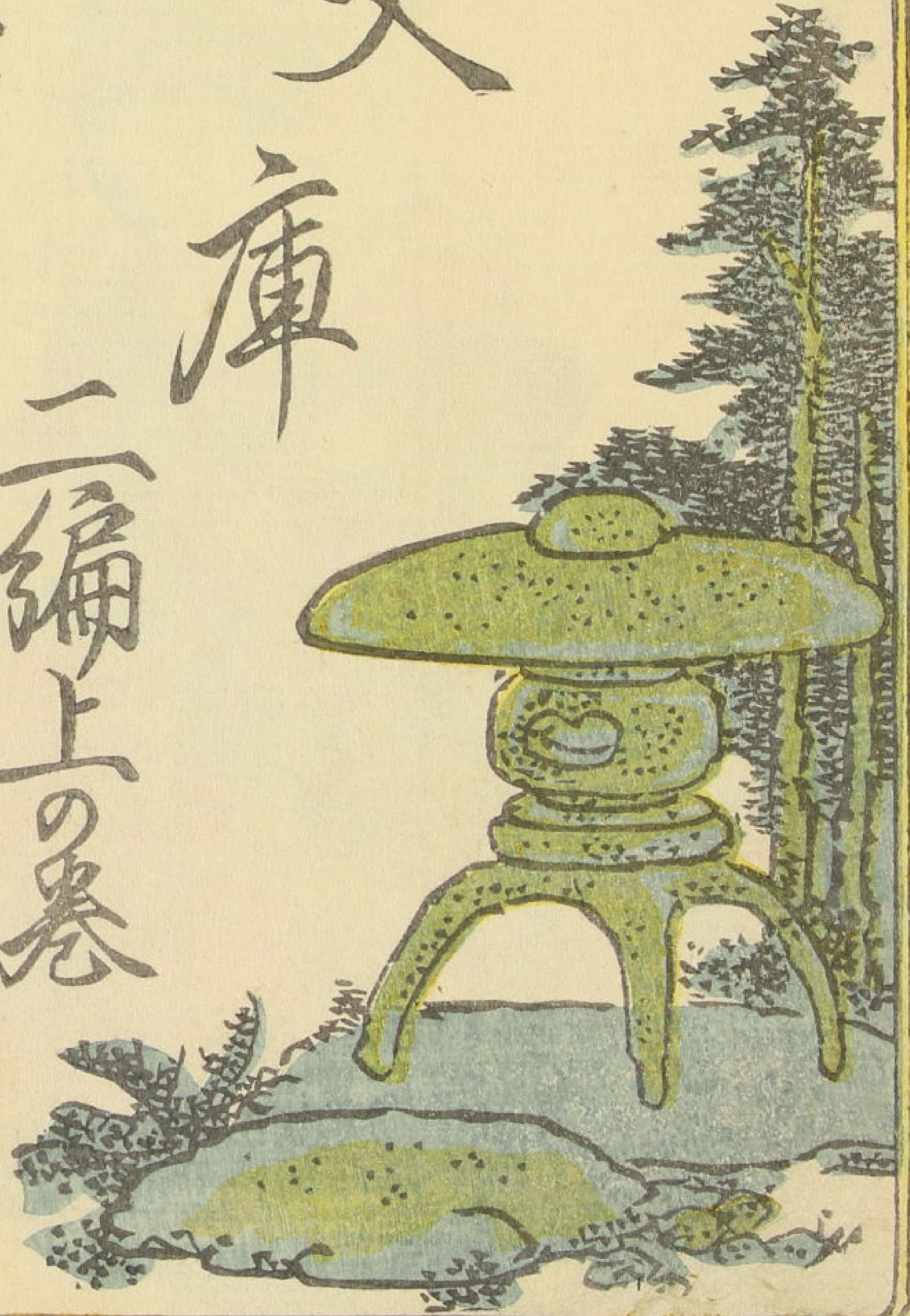
重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續

端唄さい海の竹

倭文庫二編
万亭應賀作
外題豊国画
上

倭文庫 二編上の巻

万亭應賀作
一陽斎豊國画



津名画
錦重堂梓

釋迦八相倭文庫二編序

抑中天竺迦毘羅城三十七代浄飯大王の后摩耶夫人王子懐胎ありしより妹の憍曇弥嫉妬ふかく一念十六丈の蛇形となりあるひハ怨身を悲ミて内縛外縛業縛乃無明の法の調伏に三百六十餘流の血筋を搦めたる衛突鎗梅ありとも倒ぬ花ハ散ず胎ハ鶯舎法華經の玉との入なる仏童子が神力自在の奇特ある一代修行に基けと戯作の筆にまきのべ直に倭文庫と題ると爾云

弘化三年丙午春新版　万亭應賀識

轎曇弥の嫉妬の
一念青蛇形と顕れ
青龍城の
摩耶夫人
を怨む
馬将軍
二人の行者
儀白
仙人
無間仙人に
調伏の法を頼む

摩耶夫人藍毘尼苑の花の宴に提婆羅樹の英を浄飯大王へ捧んとて

初へのつゞき

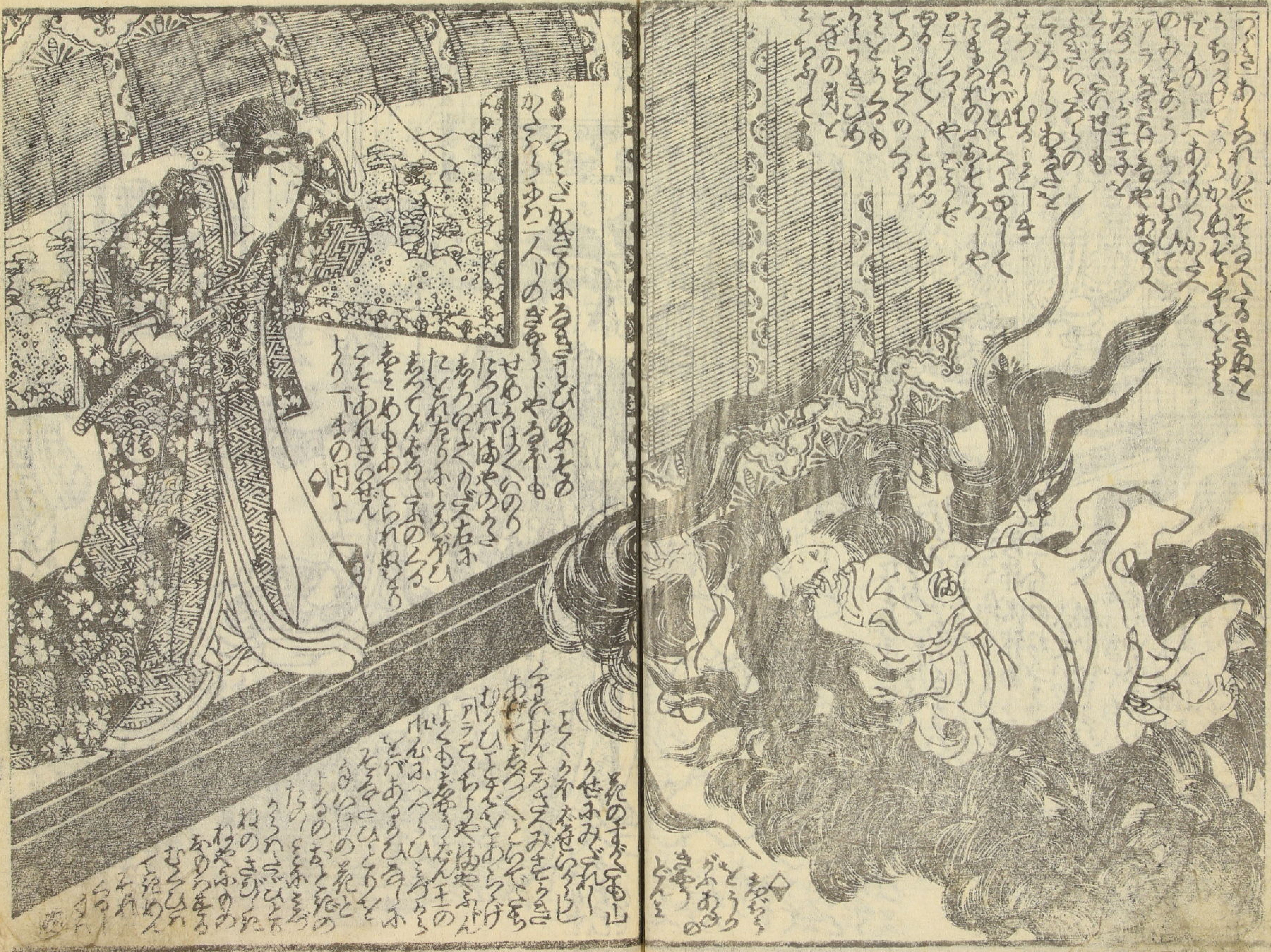
されバこそかうしや
由やまく人ハなおざりならず
織へくハせん人バ
廿八ぞう
二人りのきやうだいやハ
まをそわれも忿まま
えさぶけうするこの
だくハはやのくさもちを
つくらんとひつどのよると
ころよせそ月のあを
むく人とりて七ヶび
あひて粉ハんでき
これぞまく人のちゑを
つくりひつとのうら
とのりて◉

◉かゝごとらく人は腹のくらまで
ちりどとつぎあはせみまたの
まとらせそとしまゐるのあひと
あおめこれ胎の征矢やとさ
たけのかのどとけらやまで
さりつけて地の下七丈のそ
うづめて上ゆかちゆうぶくの擅
とかざりて呪ひつどのいのち
ぐのつゆひつどのいきなく
そあ百八十かのくぎさと
にまきまへいたくそそけ
おやけのえるまへくれ
白おやのあかなられ
いのりのあがら
のんそとうちを
てらし虎狼の
とのそせうまう
さきけのおく
のかさえの細けとして
やうおくにあそてらお
たんれそみへきで
そそぞきろくまふ
つけあきとでり
らうか
そぞう

たりるさてまけんとかりすび
ねぐゞおわらどあれ

又たまとかおもて
ちゆうぶくのだんれいでも
むろひろありさまハ身の
もむろだくりさるゞる
大まく仙人ようかへいとくあつくとり
天弥沈弥あらある悪鬼神あまた
を三入りのねんずまじよまういそいのり
さそいのりそせあろくれバ
般中やぐハあんどうれ
ひとやや百八十かのへいそう
ひとろふみなれバむけん地
けんあんわけのいやりやう
はやまく人もちゆうもちる
せえうんらぞみくとやぞ
ちわきみもめいどくさえみ
地の下へのけはやのかけろ

（つぎへ）



つゞき
だんの上へあがりかゝる
王子を
ふぎいろの
花のすゞくも山

「つゞき」父せんぐ王どうらむべ今ハおやとおやとも身のわねつきれまして[illegible]ものとるぞへかのむもよふだんえんへきこへりらうんわんせよとの事そけくそのくありるゞら[illegible]

⊠それせんしとわみくどのかゝぎハわおひとりさるおようとびとやうれてきざふゞらびんをうれしきそうりもあわれゞ「かの人王子をそうてのふんにさるそうさもかくらとりそへたらさく[illegible]ひもやうふうつむきまよつきぐの女へもらひふくめよとありけれバむねふさがるゞ

◎女中ぐ[illegible]ら[illegible]

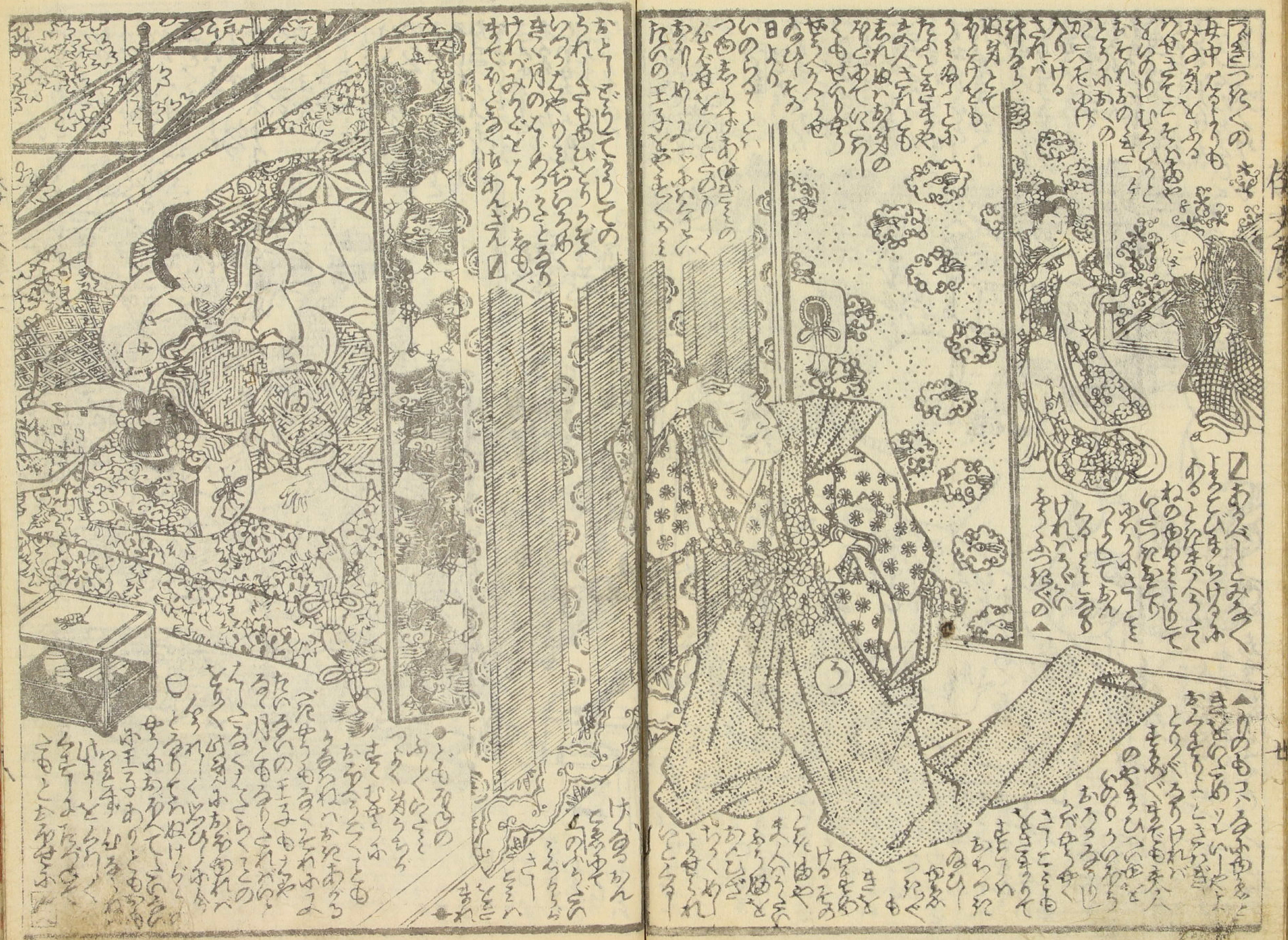
[illegible]みおつくそそりまそんとでんちうそきまりぞきゆくさそきつうどうさんちゆうぶくの法をつおもひとりくまとわくうぶとそろくたるせらぐんひ[illegible]うふまきにのそ「らうふひとくとちゆうぶくもそのくバいまも[illegible]ろ[illegible]これバ今までのごりわんも⊠

◪ぬかうぬかすやそ「それハまてもわきろうひわそなまるそれぐよろしくこうふべしとそ二人のぎかうおやへいそうぎのうへのかふかうくとのべてひつうろうろうそれよりまやきん手あとりぐしてふまぐふおつをこれをまうくまたのおやのせふきよ[illegible]ふきとそれと◎

まつまなどうへぎしぎ二人りのぎふうじやかくてうをいそうへぞあし山へうちにすてわさうてうろてくれりけれハちうせうぐんあつくもそ身てそうぎのかせよまへそまきるゝこれあるぐ[illegible]くきさせんとききみ[illegible]ぎゆうきおそれて「わか[illegible]

ひろまの内へ

五



つぎ つれ〴〵の 世中んろきりも みゐ身とふる うせきそこそかはや そらのりしむらひとし おそれおのき一ぶ とろふおくの かへをゆげ ありける されば 休るゝ 此身とそ あるけれども うき身よとふ たゞひとさきまや また人さきれども あれ此あ身の やどゆて［illegible］ くもせのかり ［illegible］ あのひしその 日より いのちてとく ［illegible］ ［illegible］ あらけめ一ッふかく ［illegible］の王子どやまもくろき

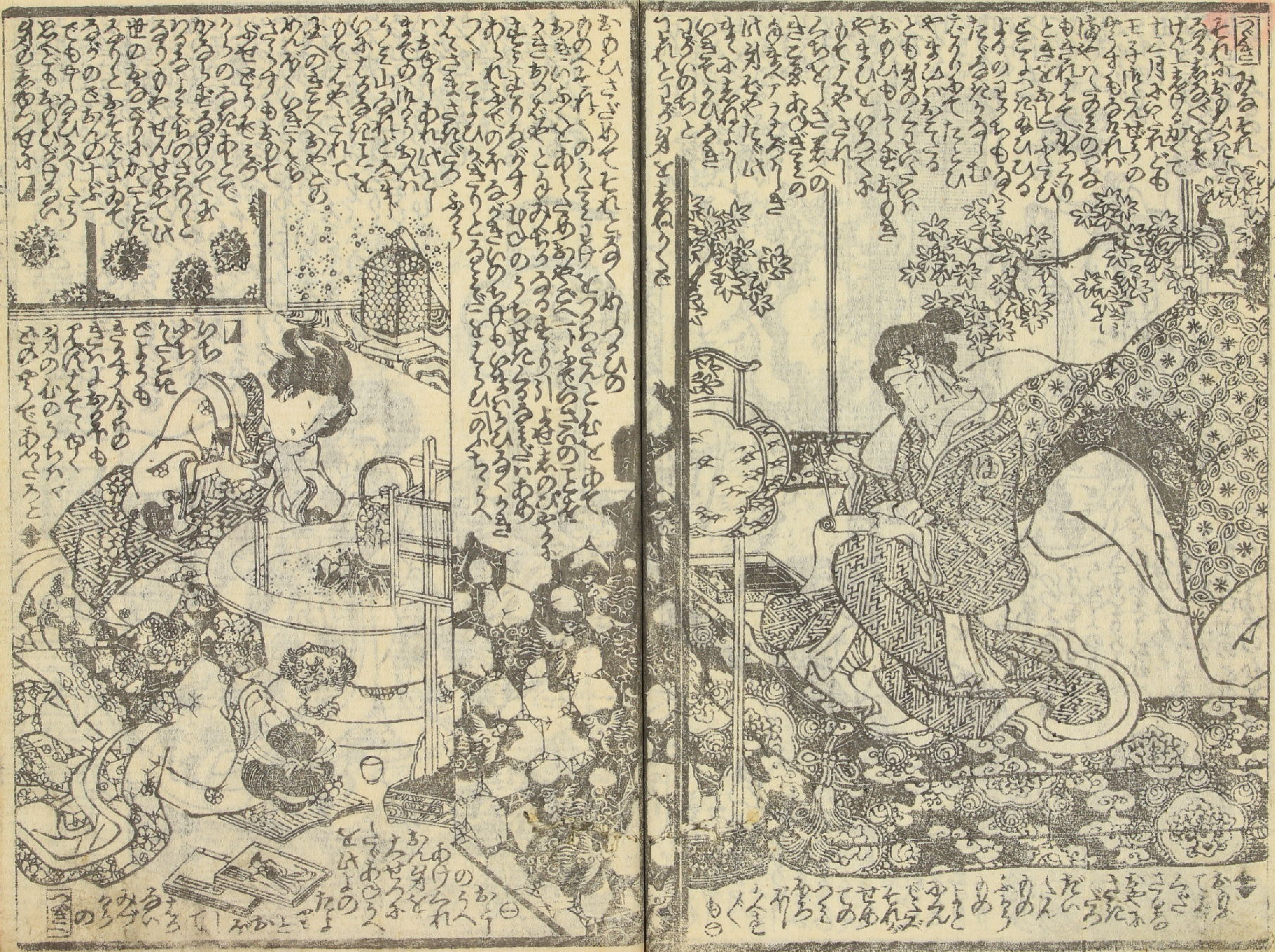
おとしざりしての られしくもあびとりふそ らうつえやのまおちらわく きく月のそのうさとろり けれべみらざどくぞめ来もく すぞあくはあんさん

あまべしとみきく よきとひまちけるか わるとんきへ入ふそ ねのあかましりして らうれあそり ゆかうゆさうを つく七てあん うまし［illegible］ けれがそれ やまふ［illegible］の

りのもコハ［illegible］ きぞのふあ［illegible］ おそまりよ［illegible］ とりくべろりけれ ままあぐ［illegible］ のやきうひつへ［illegible］ ［illegible］ おろゝろそりし ［illegible］ さうにこも ［illegible］ まもうれ ［illegible］ ［illegible］ かまか つれ〴〵も きを ［illegible］ けるその こんれ由や まへ入［illegible］ ［illegible］ あんとびき ［illegible］ よ［illegible］られ ［illegible］

けるるかん ［illegible］ のふらぶの ［illegible］ さし ［illegible］ きまれ

こも元の ふくいくに つらく消ふらう きくむかうふ おぶへうらくても ［illegible］ ［illegible］ ［illegible］の王子もたまや ［illegible］ ［illegible］ ［illegible］ ［illegible］ ［illegible］ ［illegible］ ［illegible］ ［illegible］ ［illegible］



（つゞき）みるにそれ [illegible]

[illegible] けんじやう [illegible] 十二月 [illegible] 王子 [illegible] ありさまも [illegible]

[illegible]

「三」 [illegible]

安政三年丙辰春新板目録

倭文庫 三十四編 三十五編 三十六編 三十七編 万亭應賀作 一陽齋豊國画

赤松譚 九編 十編 如淵外史作 同画

童井菱 六編 七編 為永春水作 同画

譚柄瑠璃蘚 四編 五編 西澤一鳳作 一勇齋國芳画

茶番案文 全冊 万亭應賀作 一陽齋豊國画

神代そゝは草 三編 四編 同作 一勇齋國芳画

合重 本類錦繪 人形 土州屋重藏

一陽齋豊國画
錦重堂版
下

[illegible]

（次へ）

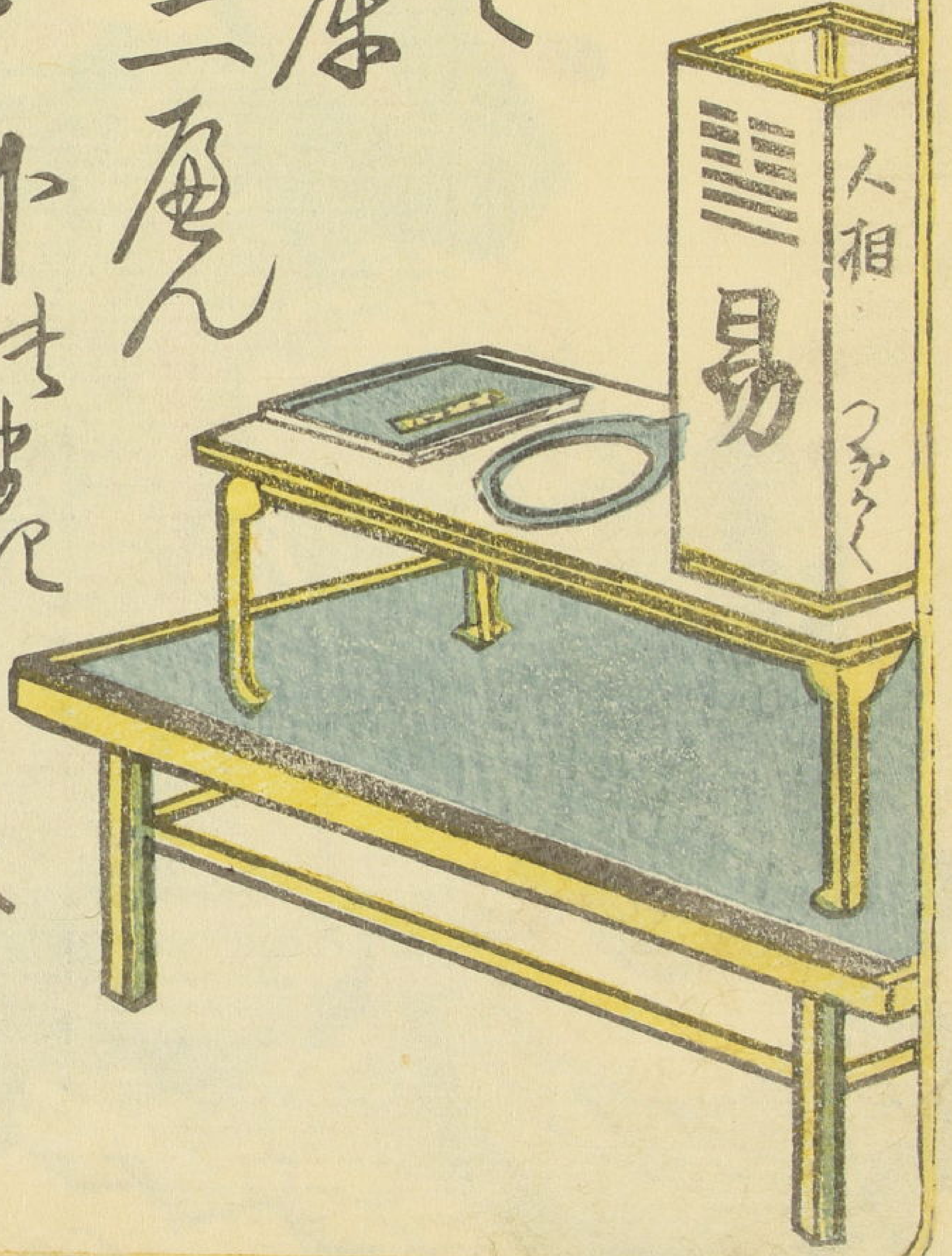
座鋪文庫

二編 下続

上

應賀作

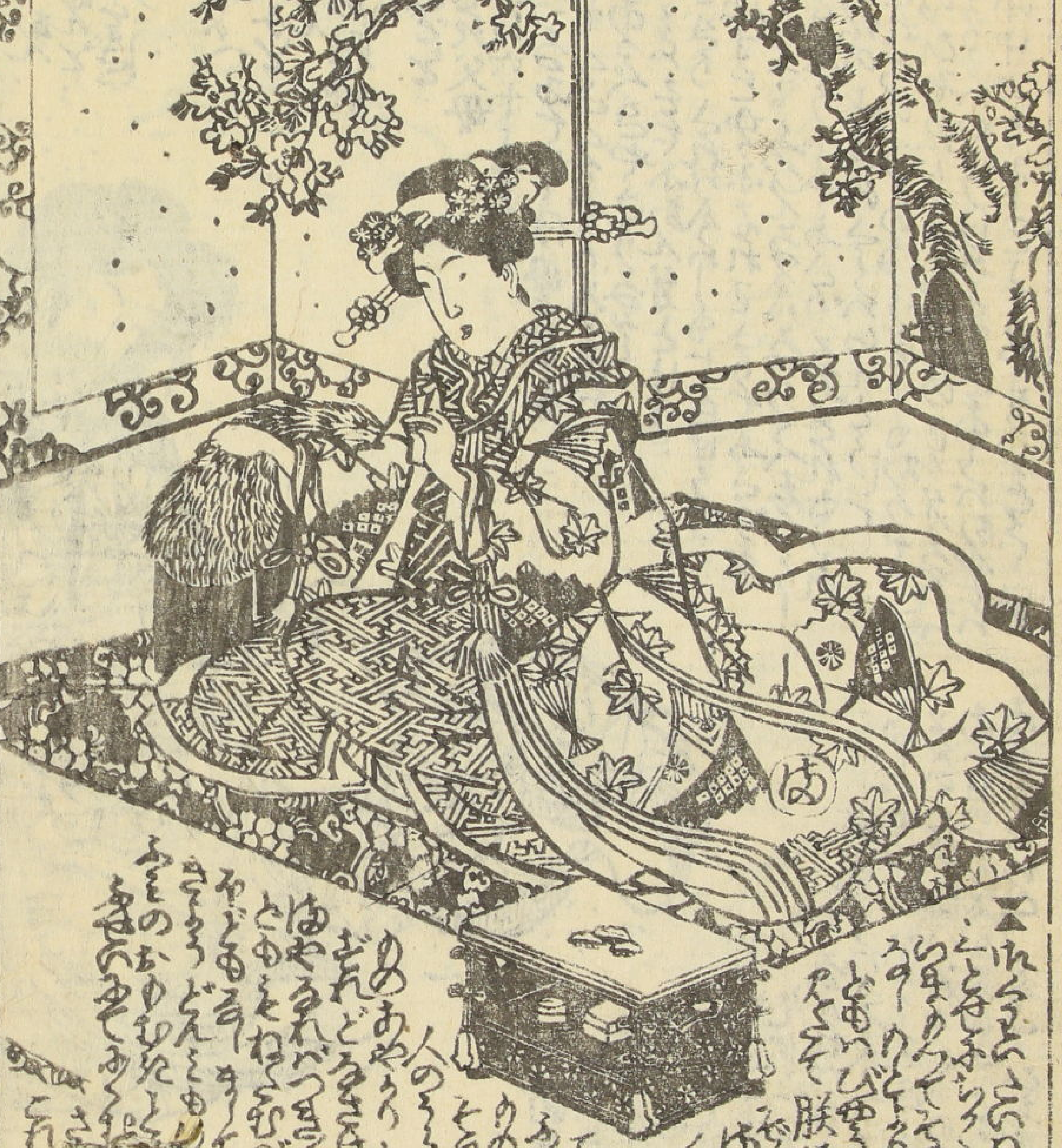
豊国画



「つゞき」みそんそのなめに正覚する九ぞんはそのまゝぢんぜうなり
天子のむきをうつしてそのみなもとなり
あくこれとつゝまずのかうんかた
わしぬかるそれいっときの玄えとして
そうのせんぐんをやすくして
せうぜうふ人とち人とうまれて
よろつのどうやうとまありといふて
やるとすみわち二つのさうをてんぐ
せうのふ十宝のあきそまつ
かそしきとすそ○同はなし
○同ぐるとすそ○同おく人と
○同はつゝきとまず○同ふと
すそ○同るへざるとまず○同
をてき○同うけるとすそ○らん
外どうしむるなと
るゝきんとまつて
十宝の
かきそへ
さそよ
のまつて
ひかまつ
とんせう
せざるそのあるおきて
きやうどんを

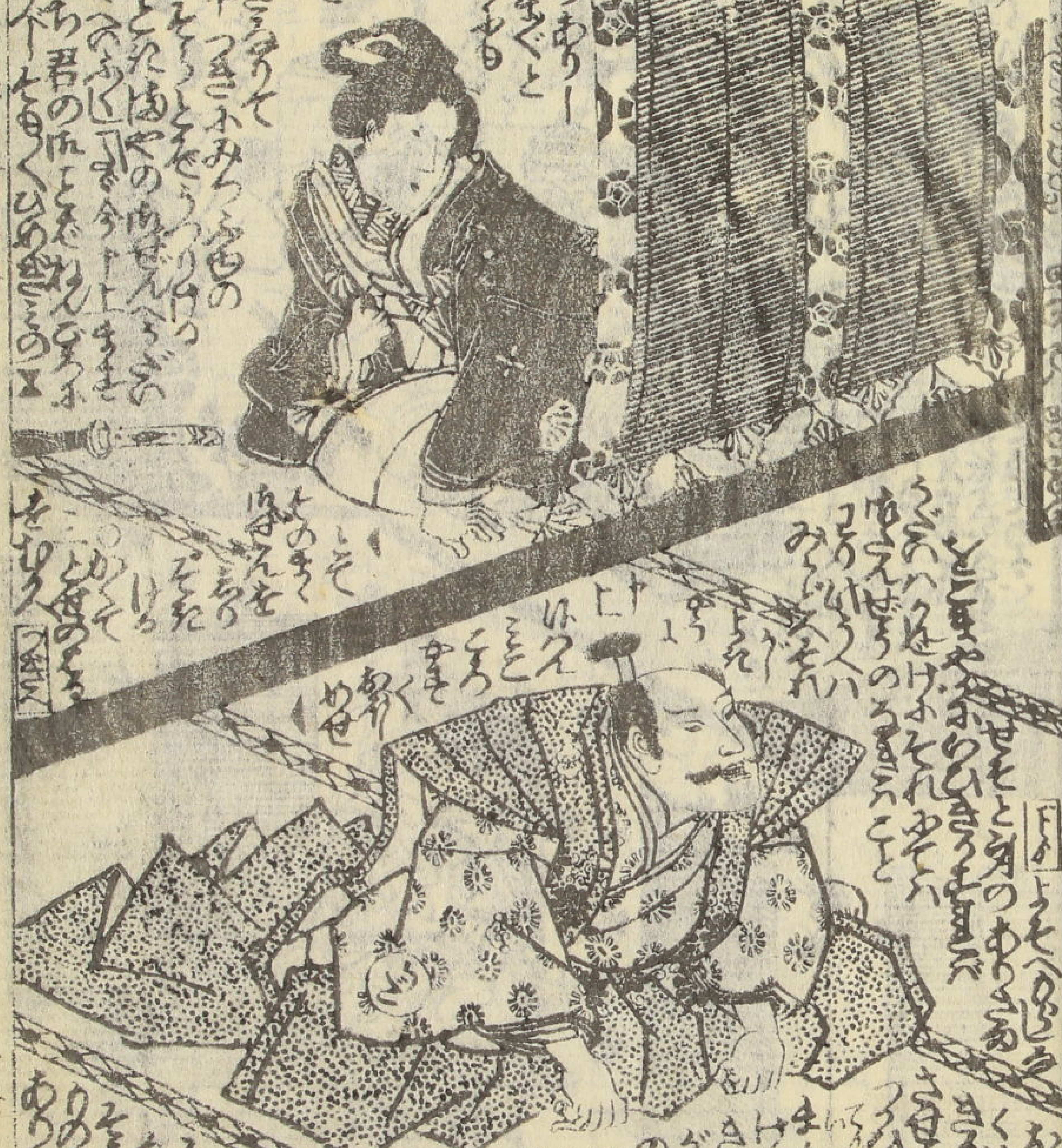
あつとふつくあん
なのくまいゑとつ
きくようもまぎ
やうひのとう
いつまりて
月ぬ殿せうけんへ
むろへ八おやこと
ちやうぶくせん
きあかりその邪や
あふゆへ人ぜんの
あるつきのかどと
七ネへほねもよく父母
ようそくるに百六十よ子うの
ちまちを大つるゆそかけ母さま
九のあらくゆくぶるなりるまべ
りぞ今のあるべきやさうゐから
きやうどんそれをそふおんみとけう
ぞいのえんときりこれは今やも七百せうの
りうきの念ねすとかふえれまるりてかりが
いのちつかまづくでふぶんるるはみらくえど
ちうきうふくのきあろどやふくろみりこれもつれ
ふうらいさ私のときらてんべりんどうして
たまそくべーこれらのゆかろうぞもあろそう
みるあをひのひそれいきおそこのこひろみれが
いまゆもうまうこれやかすけれどもさからべきんまれ
たちゝどそうふ中ぐちゆよでしもやまゑまそく

きやうだん
まるやくるた
ようらさこるや
わんのてーしや
おとりてせうじ
せでふ母あひとふう
れがらそくもうひ
るそれべあれ系語
どうぞうれさん今つけまうし
ゐどもへでひさうくふきすそのえ
えのなへ面やれがんめてゑも
おふ日のおゑきふあめくえゐんひ
のひそとらひつふうひちがさと次へ



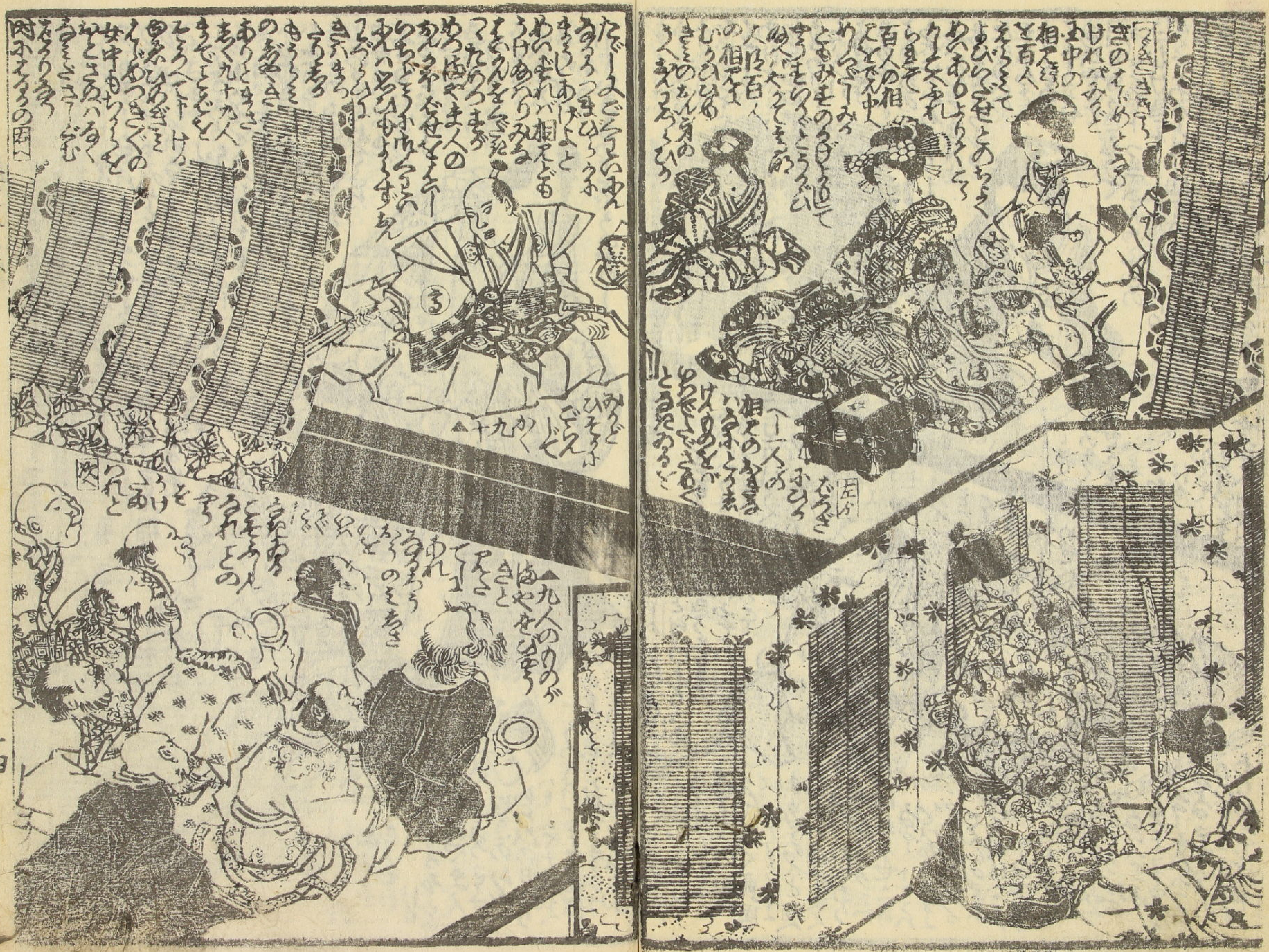
うけて たれ宮へ入り あふと思へバ たちまちに くもりゆき かげやれて みえざるよ [illegible] おどろき 思めさめて これとうち 身とれさ [illegible] [illegible] 今のおや [illegible] それ一 [illegible]

[illegible] 一人 [illegible] 女の子 人の [illegible] そのおめ [illegible]



[illegible] 典医 [illegible]

姿文庫

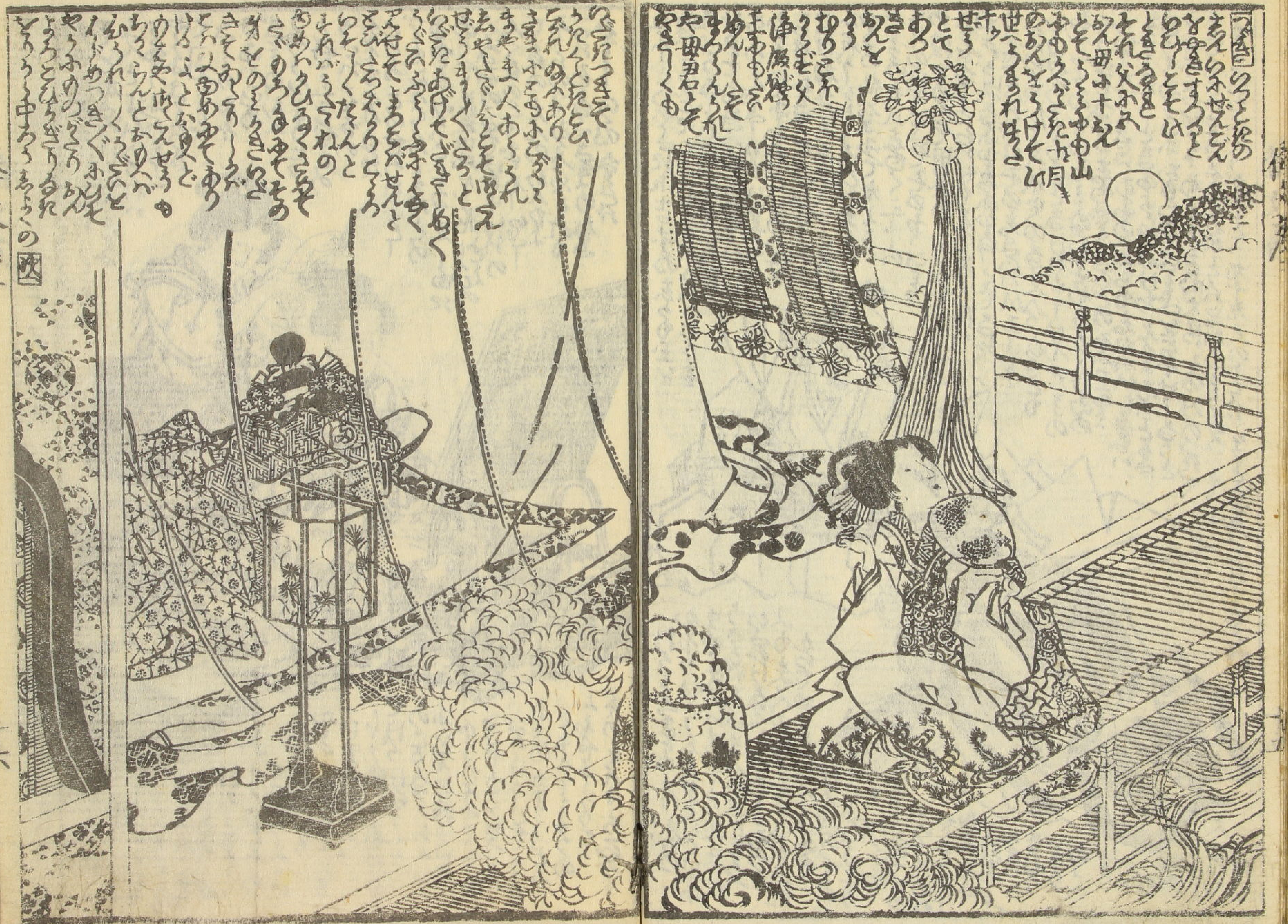


〔つゞき〕あそばせふようてきが敷大臣 [illegible]
[illegible] 今九十九人 [illegible]
[illegible] 今相さまに且 [illegible]
[illegible] まこの [illegible]
イヤ おきまるのとそでうぶかく

[illegible] 敷中をあっそけ

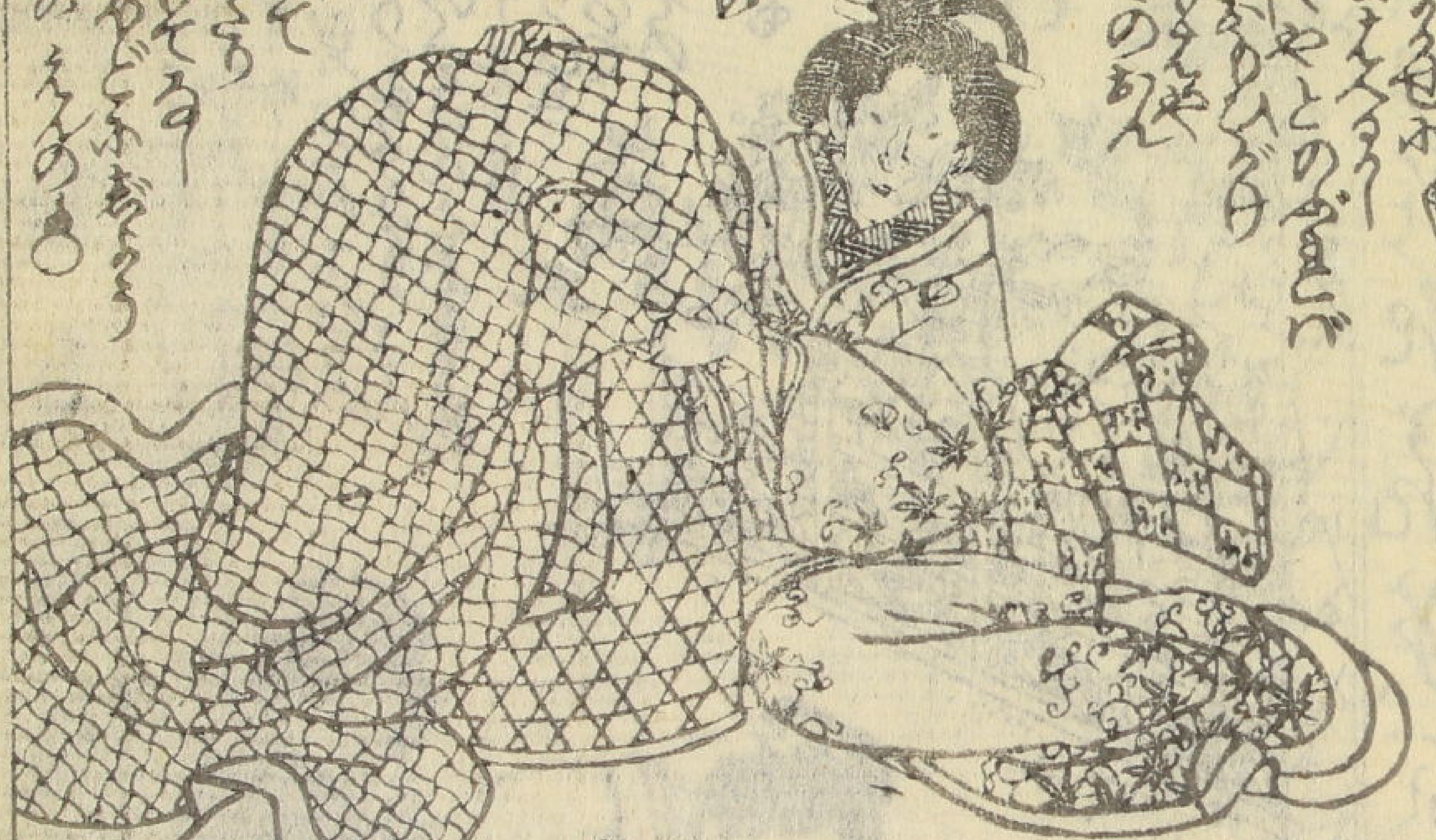
さやどめでた 死れ [illegible] 玉と
[illegible]
七より 丸八 [illegible] 二十六 [illegible]
[illegible] 星とさそ [illegible] 男女の [illegible]
[illegible] 水火の [illegible] 天子の
[illegible] 君 [illegible]
ようこびて一人りが事とち 孝千九人の [illegible] すまつとれまでと◇

[illegible] 大星丸 つゞく [illegible] 七日の



つゞき それよりよぶ女中に入りこさ
あんつひそまかりてりてそ入りこさ
まへはやいのそがりしくわく
やとかゝろけいさゝる
ことよひへかれば
それうぶれきと
やかはさみつき
てそこがぶ
きこのかれ
せかやひめ
ぎこのあん
みてひより二女
と合ととせこの
うこれなるの
ええもこれるた
ところこのせうへよをて
づゝめんころよれたとの
るめ見みちでとりてえゝ由に
ありて菩薩田比尼花からんひの
ゝるその此寺中きうの
人くせのそゝぎめーゝてー
て花のえんのおんのよ
みれいの〆あうたそれも
一ツハそるさ宮のきき
なーしのめ宮ぞ

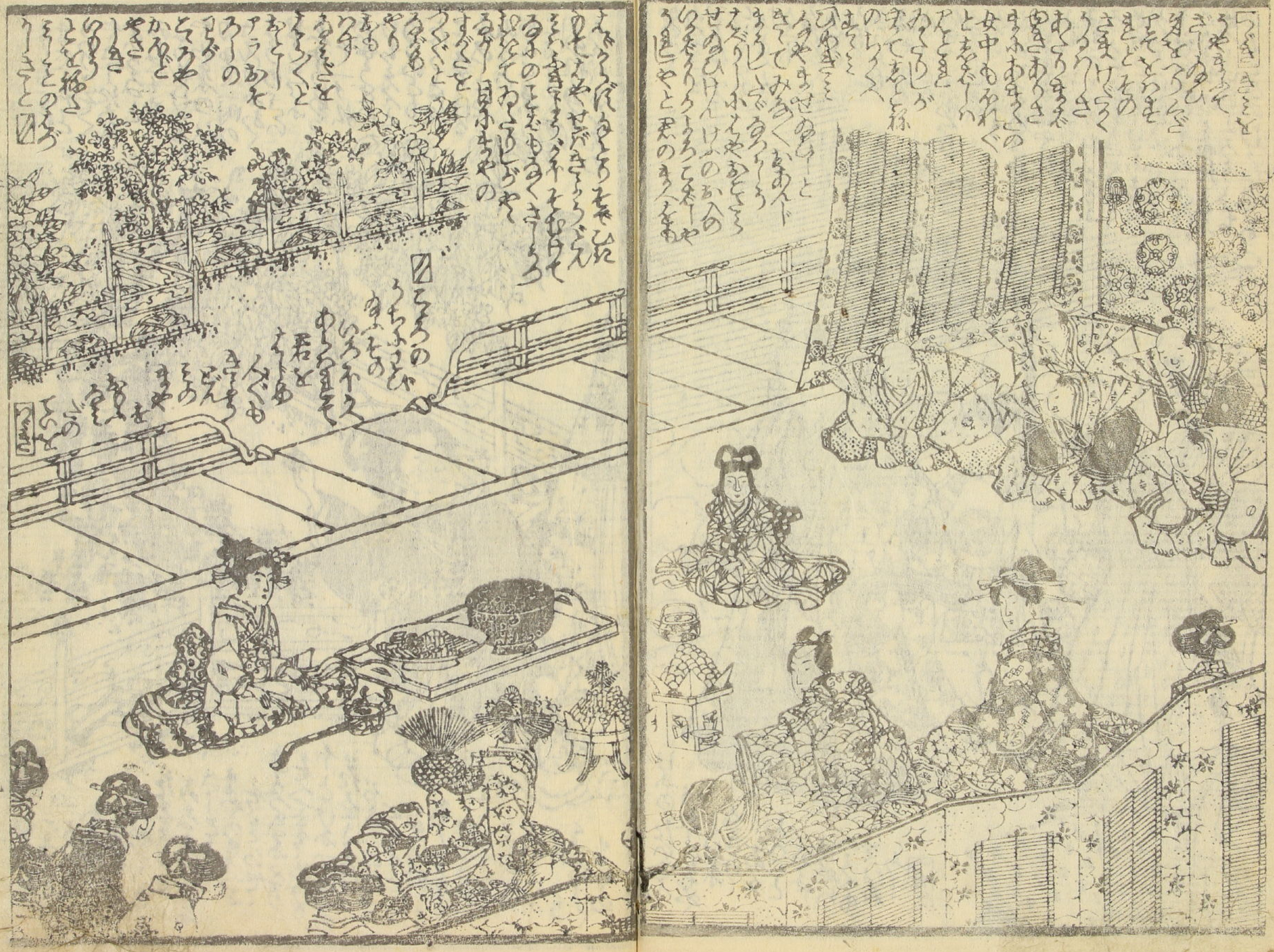
さく はやのおまへせに
せよとのあわせてそへ入りし
いつゝお守めさるてやとのかとゞ
はやいのとやうにお門おりひうけ
るけいのふとひよんや
こと合もつかきさのおん
かやせもそいし
まつくけまおんゐる
うこれわくらに
けれにおまる
まけやとめうが
るやのつさいゝや
ことにようが〆くの
よろくそーも
うちきとやてとれ
いのにおもきて花
ほうあえんにこそ
あやうようてひ
ひへろ是への
おへどよれもうに
やあひられよとそ
るやるきくのものがう
まうみそうぶそのそそ
うへさ立けるさるなどにおもう
かん王ゆかりよ花のえんの



まゝかやきてくる西
まどもちくろのうちの
あとそろしきえよふしてふべき
うもうくいのとはやとれえう
きのえんきりくうとが入るふうかふ
こうふかゝるのもるくあめず
おくせもちうろつてとひよ
つれぐの女中ひきつまとそ
ごせんちうえきそてきける
されいせへやうでんの
南とこの
かくへれ
はよ
わと

きよあんめの道
ありそのよう
いとそ船上
船下うれ
下へとくゞ
どくうもいの
今さんへ上ち
さうおそうが
斜のくきとくく
まんぞろの
じんぎ五さき
あくぎけの
かくてその日とうも
けはまみなど
ミヤナ礒へと南にあり
てけりけらんかく
のこりうくらんば
おとえの西に世の
やうでそに上下の
でそうめゝぞつく
りけうさそにあと
あいのさやうどん
ともさときとうの
がりせぶよりた
花のえんにさきか

天人とも
仙女とも
たとへん



つぐき
うやまつて
さしのべし
御手をとらんと
まどへその
きまりけるに
うつりきつさ
わらりますへ
恵まあるき
まふおまへの
女中もみれぐ
とまをしゝ
なんとまゝ
わてもしが
手てあと様
のしらく
まてゝ
ひめぎみこゝ
みやすさせめし一と
きてみまく〳〵
まうしぐうつしう
えぞりしふちやうとき
せめひけんけふのお入合
のきりうろてきしや
う是しやと君のまへ
えきらだなどりなまそひれ
のそえやせだきうらうぞん
こいふ書ぐまうぞ子もけて
るふのこそもるくきうろ
ゆゑてわふりしぢや
るり目ふさのの
すぐさを
つぐと
あぐる
やり
まも
いなす
あそこを
まうくと
おとし
アラおそ
ろしの
こうぐ
とろや
かなど
やさ
しき
のもう
ことを様さ
うくとのそうご
りきうと
こきうのうちふきやまふそのいろわりわるまそ君とえんゐくでもきいまうどんこのまや
つぐき

つゞき　かくて
よりもこれ
ますそれと
かりさそく
やさしきおも
まかるると
みあ一千まう
まうれけるされ
やかまの仏
かゆそ一同の
さえけふあく
こうのざい
まうそふ
まかめら
して一千仏
おきうどの
けもえんと
ろものとも
たらしんれ
こころける
そのしんれ
みのど
あんことあ
はそしく
「あれみる
らんびゆきんの

◇あるところに
らかひくるみ
あかそつて
これやくと
たちよりそれ
みるみんぎーふ
さーしてきらふ
まやのまつふ
まてさらのそ
さうきふどう
そへてまゐりけり
ふしきふ一えきの
それをきうげ
がてんのはら
とうきとのひ
るは時より
そきんにまり
けるされば
さうつきの
うまめぐら
てみうとの
まけしき
うらわく
まやの

宝様いよいよね
あれどもねらず
きまことあひと
あそふやのある
うまりきけふ
のもとに
あまさ
ころくの
ゆきあけ
を一トとて
ゆきさまーそく
たちよりそうれと
その身よりそへて一まうくと
うれひさうかうづきめぐら
さもれきまへときその
おかせのそのあん
これのまきさそ
けふ法やまの人を
それのあとまで
まうつうのおきし
るけなべころぎーの
あるもよりて下さきたるそて
かんぎーわさせさてとまてやよと
おかせあなべまうく、ねらふとこそ
るりとひくゆみまちらそくのされが
まやのあんさのこまうこうづえの夢なるらんと◇

やゝふ
むうひ
あひ
あれ
うきつ
だらう
おもの
くるまさ
らんびい
ゆきんの
長
これが
一トえ
ちんぎ
らんが
しふ
せん
わあれ
ちとも
てよ
あと
おぬ
あり
つゞき

一陽齋豊國画　万亭應賀作

安政三年丙辰春新板目録

倭文庫出世双六（やまとぶんこしゅっせすごろく）　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊　将棊双六　同作　歌川貞房画

男女振合　役替双六　同作　一陽齋豊國画

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續

清元稽古本　初編　二編　出板

常磐津懐中本　初編　二編　三編　四編　追々出板仕候

極上摺　百枚摘　擬百人一首　一陽齋豊國　勇齋國芳　立齋廣重　筆合

本手市川茶歌